

人手不足の中でも生産性を向上させるため、IoT機器を導入する現場は近年多くなった。しかし、1台ずつ管理が行われている場合は管理ソフトの往来などの手間が膨大になり、むしろ生産性を低下させてしまう可能性がある。そのような課題を踏まえ、IoT機器の開発・販売などを行うキッズウェイ（愛知県瀬戸市）は、管理ダッシュボード「XrossView（クロスビュー）」を開発した。各機器が取得したデータなどを一元管理し、事務所や現場のモニター、作業員のタブレットなどで現場の情報を「見える化」することで効率化につなげる。

XrossView

多様なデータを「見える化」

=キッズウェイ=



キッズウェイ高橋孝司
経営執行役社長

クロスビューの画面には現場に設置している機器のデータの他、天気予報やウェブサイト、PDFファイルなどを配置できる。会社・現場のニーズに応じて、各コンテナのサイズ・配置場所を自由自在に組み合わせが可能。複数現場の稼働・進捗状況の確認や指示も可能なため、移動時間の削減などが期待できる。同社はこれまで、センサーで温度湿度などを測定する「WEATHER Y」や顔認証システム「FACE ma」などの製品を開発。省人化や情報の可視化を進めてきた経験を生かしてリリースしたクロスビューは、これらの自社製品だけではなく他社

製品とも連携できる点も特徴だ。同社の高橋孝司経営執行役社長は「各製品でプログラムなどが統一されていないため、共通部分を抜き出し連携させる作業が大変だった」と開発



「XrossView」の画面イメージ

で活用してもらいたい。アイデアやフィードバックをもらいながら改善を進め、将来的には大手にも販路を広げていきたい」と意気込む。（ビジネス開発事業部 十時伶緒）

時の苦勞を打ち明ける。普段はライバルとしてしのぎを削る、多くの同業者も協力してくれたという。今後の展開について高橋社長は、「まずはIoT機器やIT技術を積極的に取り入れている中堅ゼネコンの本部に売り込み、全現場